

CHAPTER 5 ブルーススケール

さて、本章と次章はブルーススケールを使ってモチーフを作ってみましょう、という回です。

ということで、当然ブルーススケールについて説明しなければいけないのですが、結論だけ言っておきますと、

そもそも、ブルーススケール、というものはちゃんと存在しません。

つまり、ブルーススケールとはこれ、と言えるようなものはありません。でも、こんな感じでよく使う、というものはいくつかありますが・・・

ブルーススケールとは何か？ これは歴史的に、アフリカからアメリカにつれてこられた人たちが、西洋音楽を押し付けられたときに、自分たちの音楽にフィットさせるために発生してきたものと考えられています。

で、どのようにフィットさせたか?? “ブルーノート”を加えました。

ブルーノートとは、そのキーのスケールの3と5と7にフラットを付けたものです。

もしキーがCなら、EとGとBにフラットをつけたEb, Gb, Bbがブルーノートと呼ばれます。

つまり、アフリカの人たちは3と5と7にフラットを付けたくなる文化の人たちだったので、教会などで西洋音楽を歌わされたら、勝手にフラットを付けて歌ったりしていたというわけです。

当然、メジャースケールも3、5、7にフラットを付けちゃうわけです。

それがブルーススケールの発生の由来で、一番元のブルーススケールということができます。

C Major Scale



ブルースの元？スケール



なのですが、誰が決めたわけでもなく、これが正しいというものが存在しません。

ですが、よく使われる“通称ブルーススケール”というものがあまして、

C 通称ブルーススケール その1



C 通称ブルーススケール その2



このあたりがよく使われる、通称ブルーススケールです。その1とその2の違いはレの音、つまり9の音が入っているかどうかです。

ここでは、最もよく使われるであろう“通称ブルーススケールその1”を中心にお話したいと思います。

今回はFのブルースを練習しているので、Fの“通称ブルーススケールその1”を練習してみましょう。

In C : F Blues Scale



In Eb : D Blues Scale



In Bb : G Blues Scale



上から各楽器ごとに並んでいます。

皆さんがお使いの楽器のキーで、以下のように練習してください。

In C Instrument

上昇系



etc.....

下降系



etc....

例えば、Cの楽器だと上のようになります。ただスケールで上がったりがったりしただけです。それを各楽器で練習しましょう。次章ではブルーススケールを使ったアドリブを説明します。